

## 各教科の特性を踏まえた、東方中学校における「主体的・対話的で深い学び」を生む学習構成表

### 英語科

段階	定義	活動場面	教科の特性を考慮した活動（生徒の立場で記入する。）	ICT の活用
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問いや疑問に対して、これまでに学習してきた知識や技能を使って、自分の考えをもつこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題を提示する。</li> <li>● 各自で学習課題に関する内容について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時の学習課題を確認する。</li> <li>● 前時までに学習した内容の中から、本時の学習課題に関することを確認する。</li> <li>● 学習課題に関する紹介文やスキットづくり、スピーチ原稿などを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 紹介文やスキット作成、スピーチ原稿などを作成する際に、インターネットを用いて情報収集したことを活用して、授業支援ソフト（発表ノート）にまとめさせる。</li> <li>● タブレットPCと授業支援ソフトのカメラ機能を用いて自分の発表の様子をビデオで記録し、振り返ることで改善につなげさせる。</li> <li>● 前時までに学習した内容と本時の学習内容に関係した内容につなげるため、デジタル教科書の文法のまとめを使って確認させる。</li> <li>● パワーポイントなどで作成したプレゼンテーションを用いて、学習課題に関する画像や動画を視聴させる。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他と対話しながら、自分の考えを比較・吟味するなどして、考えを広げたり深めたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自で作成した紹介文やスキット、スピーチ原稿などをグループ内で発表し、練り合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ内で、各自で作成した紹介文やスキット、スピーチ原稿などを発表する。</li> <li>● お互いが発表したものについて、グループ内で、付け加えたり訂正したりしながら発表原稿を練り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人で作成した紹介文やスキット、スピーチ原稿などについて授業支援ソフト（グループ化）を使ってグループ内で発表させる。また、互いの意見を比較させながら、付け加えたり修正したり練り上げさせ、よりよい発表原稿を作成させる。</li> <li>● 教科書 writing のところでペアやグループで質問させたり答えさせたりすることで他の意見を取り入れ今後の活動につなげさせる。</li> <li>● 英問英答だけでなく、それを用いた簡単な会話を作成させ、発表させることで会話の幅を広げさせる。</li> </ul>

## 各教科の特性を踏まえた、東方中学校における「主体的・対話的で深い学び」を生む学習構成表

### 英語科

深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分のこれまでの考えと新たな考えをつなげること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自やグループで練り合ったことを発表する。</li> <li>● 学習のまとめを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発表するときは根拠を示しながら発表する。</li> <li>● 聞き手は相づちを打ったり、聞き返したりしながら発表を聞く。</li> <li>● 互いに称賛し合ったり、疑問に思ったことなどを質問したりする。</li> <li>● 発表したことを個やグループ、学級全体で振り返り、記録に残す。</li> <li>● 本時に学習した内容を整理してノートにまとめる。</li> <li>● 前時までに学習した内容と、本時に学習した内容がどのように関係しているのか確認する。</li> <li>● 本時に学習した内容を、実際の英会話の場面でどのように使うことができるのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タブレットPCと授業支援ソフトを用いて学習した内容を発表する。その際、発表者の画面を各生徒機の画面に提示し、発表する内容を見やすくさせる。</li> <li>● 他の発表を聞くことで新しい表現を学ばせ、互いに評価させることで自分自身の活動を振り返らせ、今後の活動につなげさせる。</li> </ul>
------	--	---	---	---